

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援室「麒麟児」		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療機器が揃っている パルスオキシメーター 酸素濃縮器 抗原キット、汰項目PCR検査機によって心臓や呼吸器に障害がある子の感染症の診断をすることができる 医療機関内になるので、状態の悪化時の対応ができる	感染症の管理、特にきょうだいからの感染	大学病院と連携して、小児がんや心疾患の治療や手術がスムーズに進められるように支援する
2			
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	3歳以上、少なくとも5歳までには福祉型の通所支援施設あるいは一般の保育所や幼稚園に移行する。その後に体調が悪くなった場合のみ当施設あるいは併設している病児保育室で対応する。	自閉症等の神経発達症も施設管理者である医師の専門分野であるが、部屋の大きさや多忙のために、現時点ではその分野までは拡張できない。	2025年10月に医療型短期入所施設を設立した。医療的ケアを要する就学児に対しても対応できる。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援室「麒麟児」
------	--------------

公表日 2026年 3月 12日

利用児童数 2026年 3月 12日

回収数 3

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	<input type="radio"/>					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	<input type="radio"/>					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	<input type="radio"/>					
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	<input type="radio"/>					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	<input type="radio"/>					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	<input type="radio"/>					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	<input type="radio"/>					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	<input type="radio"/>					
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	<input type="radio"/>						
非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	<input type="radio"/>					
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	<input type="radio"/>					
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	<input type="radio"/>					
満 足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	<input type="radio"/>					
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	<input type="radio"/>					
	29 事業所の支援に満足していますか。	<input type="radio"/>					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年 3月 日			
児童発達支援室「顔顔児」					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	○		明確管理が必要なので、利用者1に対してスタッフ(保育士)1である。常勤職員は3人に対して1である	床の吸引やCPAPの際は、看護師が1対1が必要である
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく快適化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		2歳未満はいつも個別にしている	乳児や1歳未満は同年齢といっしょに遊ばない
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	○			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する際により実施しているか。	○			乳児に対しては、当施設で標準化したツールを開発中
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のわらび及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い気付いた点等を共有しているか。	○			
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しを必要を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	○			
	25 地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			併設医療機関(あらいこもクリニック)と大学病院が児科や児外科と連絡を電話でとっている。大学での短期カンファレンスも参加している
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			3歳以降になつてから、移行支援をおこなっている
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			特別支援が必要かどうかは、あらいこもクリニックと大学、市の教育委員会と話し合われる。医カアの程度により判断される
	28 (28～30は、センターのみ回答)				
	29 地域の他の児童発達支援センターや障害児発達支援事業所等と連携をとり、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	30 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
31 (31は、事業所のみ回答)					
32 地域の児童発達支援センターとの連携をとり、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられる機会を設けているか。					
33 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。					
34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。					
35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。					
36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				
37 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、こどもや家族の意向を尊重する機会を設けているか。	○				
38 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
39 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、相談や必要な助言と支援を行っているか。	○				
40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○				
41 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
42 定期的に連絡等を発行することや、HP/SNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○				
43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	○				
46 予防的対策(マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等)を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○				
47 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に訓練、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				
48 事前に、販売や予約接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				
49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○				
50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
51 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○				
53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○				
54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			身体拘束がある乳幼児であり、拘束は必要ない	